

## 令和2年度第1回「北海道史への扉」編集小部会議事録

日 時：令和2年7月30日（木）13:00～13:50

場 所：北海道庁本庁舎3階 道史編さん室資料室

参加者：平野小部会長、奥田委員、小内委員  
事務局（靄原、杉本）

### 1 開 会

### 2 議事

- (1) 「北海道史への扉」第1号への所感と今後の取組みについて
- (2) 「北海道史への扉」第2号の構成について

### 3 閉 会

## 1 開 会

### ○平野小部会長

お集まりいただきありがとうございます。本日は、発刊した「北海道史への扉」第1号に対する反応などをお聞きし、続いて本年度発行の第2号の中身について決めていきたい。

## 2 議事

### (1) 「北海道史への扉」第1号への所感と今後の取組みについて

#### ○平野小部会長

「北海道史への扉」第1号について、外部から事務局に意見などは来ていますか。

#### ○事務局

特にはありません。編さん室のホームページに置いているが、もう少しリンクを張るなどした方がよいかもしれない。

#### ○平野小部会長

北海道のホームページの最初の画面や、早めにたどり着けるように組織の上の方に置けないか。

#### ○奥田委員

文書館や図書館、博物館からリンクを張らせてもらってはどうか。また、閲覧数がわかるようにカウンターを付けた方がよいのではないか。

#### ○事務局

置き場所は、もっと上の方に置けるかどうかは相談してみる。行政から行くよりも、文書館・図書館からの方が早いかもしれない。文書館・図書館・博物館には頼んでみる。カウンターは付けるようにする。

#### ○平野小部会長

私の方では、自分の書いた原稿を数人に送ったとき、「北海道史への扉」が機関誌として作られているのを知らなかったと言われた。何号か重ねられていけば知名度は上がってくると思うが、もう少し皆さんに知っていただける方法を考えていただきたい。

西田委員には、次号の原稿をお願いしたとき、「どんな新しい北海道史ができるのか、期待感を抱かせるに十分な内容」との感想をいただいた。北海道史に対する取組みの中身については、いろいろな先生に書いていただいたので、最初の号としての役割は果たせたかと思う。

#### ○小内委員

「新たな道史に望む」では、戦後の道史を4期に分けるとすれば、1期目（戦後改革・制度整備期）に関心が集まっていて、皆さんの関心は戦後の立ち上がりのところ

にあるのだと感じた。ブル氏の、「大衆文化や映像の中から」という提言は非常に斬新で、一つの意見として伺いながら、どこまで応えられるか課題だと感じた。

#### ○平野小部会長

自分の担当するところに跳ね返って来るので、そういった意味で刺激的なご指摘をいただいた。執筆者にそれなりの覚悟を与えたという意味では、効果的な指摘が多かった。「新たな道史に望む」の執筆陣には、海外植民地と北海道の内陸植民地との関わりで、東南アジアの方にも書いてもらってはとのご意見もあった。東南アジアの方にお願ひする手づるがなく見送ったが、確かにそういった見方も必要かと思っている。

「新たな道史に望む」で共通して指摘していただいたのは、資料をどう収集し、保存し、使っていくか、受け継いでいくかということ。戦後の資料の発掘・活用が重要なのだとあらためて感じた。その点をきちんと頭に置いて戦後の資料を見ていくということを、それぞれの部会、小部会でも受け止めていかなければならないと思う。

### (2) 「北海道史への扉」第2号の構成について

#### ○平野小部会長

今年度の第2号の構成については、資料2であらかたの構成案を示している。

これは第1号と骨組みは同じですね。

#### ○事務局

特集号は想定していなかったので、論文・研究ノートその他厚みのあるもの、余録、編さん活動報告、編集後記という構成で、今の時点で名前の挙がっている方をメモしている。

前号と同じレイアウトであれば、余録は1頁なので1,632字以内、論文その他は概ね5,000字程度で3頁という目安を下に書いている。

#### ○平野小部会長

西田さんをお願いしたところ、3つほどのテーマから1つ選んで書いていただけるといふことで、大丈夫だと思う。研究ノートで、ということだった。

小内先生、奥田先生の方では、何か腹案がありますか。

#### ○小内委員

教育小部会の方に書いてもらったらいいですね。横井先生か、あるいはどなたか教育小部会の方で書いていただける方はいらっしゃいませんか、という形でお願ひしたい。

#### ○奥田委員

産業・経済部会からもどなたか頼みますか。

#### ○小内委員

坂下先生はどうか。前回はすごくお忙しそうで、今もお忙しいでしょうけれども、

この間、農事組合の記録が面白いとおっしゃっていた。

#### ○事務局

政治・行政部会の前田先生が、調査に行ったときに、何か書いてもらえそうなお話をされていた。

#### ○小内委員

いいですね。若い先生なので精力的に書いていただきたい。

#### ○平野小部会長

では執筆をお願いする候補としては、西田さん、小川さんのほか、産業・経済部会では坂下先生、政治・行政部会では前田先生、社会・教育・文化部会では横井先生か、あるいは教育小部会の他の先生を推薦していただくということにします。

#### ○小内委員

今回は外部の方には依頼しないのか。

#### ○平野小部会長

特に大きな問題が出て来て、必要があれば外部の方にもお願いするけれども、当面は内部の委員で構成したい。では、現時点でお名前の出ている5人に依頼をお願いします。余録の方はいかがか。

#### ○小内委員

社会・文化からは林先生にお願いしたい。短いので何か書いてくれるのではないかと。余録を書いてもらうと、次、論文を書いてもらいづらいということはないですね。

#### ○平野小部会長

ボリュームが違うので、そういうことではない。

#### ○小内委員

では林先生にお願いしてください。

#### ○平野小部会長

ほかにどなたか。

#### ○事務局

前近代小部会ですが、谷本先生の企画で、8月下旬の小部会に、開館した国立アイヌ民族博物館の職員の方をお呼びして、展示の考え方などを伺い、ディスカッションすることになっている。エピソードとして谷本先生に余録の中に書いていただければどうか。

#### ○奥田委員

谷本先生には、論考としていかがですかとお誘いした方がよいのではないかと。開館直後でタイムリーでもあるし、きちんと書く価値があり、余録ではもったいない。

#### ○平野小部会長

余録で一応お願いして、論考という形で書いていただきたい希望も出ている、とい

う依頼にしましょう。

○奥田委員

産業・経済からは、佐藤先生にお願いしたい。

○平野小部会長

では、今お名前の出た方々に依頼をしてください。

○事務局

わかりました。表紙については、今回は平野先生の研究ノートのテーマにちなんだ写真を載せたが、今後も写真でよいか。寄贈を受けた北海タイムス元蔵の写真であれば、著作権フリーで使える。

○小内委員

写真でいいと思う。

○平野小部会長

では、第1号と同じく、今後もメインとなる論文に関わりのある写真があればそれを載せる方針とする。いくつか候補をあげて各委員に送ってください。

○事務局

わかりました。刊行の日程ですが、前回の3月25日を固定した発行日にしたい。締め切りを2月10日とし、8月中に依頼する。候補に挙がった方への依頼結果についてはメールでご報告、ご相談します。

3 閉 会

○平野小部会長

以上で編集小部会を終わります。

(了)